

From Vulnerability to Resilience
— Learning Orientations Buffer
Contingent Self-Esteem From Failure —

Yu Niiya, Jennifer Crocker, and
Elizabeth N. Bartmess

Psychological Science, 15, 801-805, 2004

2008.11.12 BBS

萩原祐二

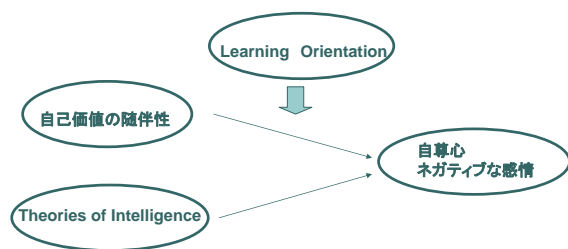
1

要約

- 自己の価値を随伴させている領域で失敗した時に、自尊心は傷つきやすく不安定
- そうした傷つきやすさ・不安定さに対し、単純なプライミングをかけることで、失敗時の
 - 自尊心の低下
 - ネガティブな感情を和らげることができる

2

おおまかに



3

問題 自己価値の随伴性

- 自己価値をどこに随伴しているかは人によって異なる (Crocker, Luhtane, Cooper, & Bouvrette, 2003)
- 学業に自己価値を随伴させている人は、学業で成功すると自尊心は増え、失敗すると減る (Crocker, Sommers, & Luhtanen, 2002)
- 学業に自己価値を随伴させる程度が大きい人ほど、悪い結果だったときに自尊心はより低くなる (Crocker, Karpinski, Quinn, & Chase, 2003)
- 自己価値を随伴させている領域で失敗すると、自尊心は傷つきやすく、不安定 (Crocker & Wolfe, 2001)

4

問題 Theories of Intelligence

- 能力に関する二つの考え方
 - Entity Theory・・・能力は遺伝によって決まっており、人生において増えたり減ったりしない(固定的)
 - Incremental Theory・・・能力は環境要因によって磨くことができる(可塑性のある)
- Incremental Theoryを信じている人よりも、Entity Theoryを信じている人のほうが、失敗時に自尊心が傷つきやすく不安定になる。なぜなら、失敗時に、知能だけでなく自己価値全体に延長してしまうから (Dweck, 2002)

5

問題

- 精神的に不健康なのは
 - Entity Theoryを信じている
 - 自己価値を随伴させている領域で失敗すること

6

問題 Learning orientation

- 失敗時のショックを和らげるためのLearning Orientationが有効 (Dweck, 2002)
- Learning Orientationとは、経験から何を学ぶことができるかを考えること

7

問題 目的

- Entity Theoryを信じているひとが、自尊心を随伴させている領域で失敗した時に、自尊心は傷つきやすく不安定になるか
- Incremental Theoryを信じることでその傷つきやすさ・不安定さを弱めることができるか

8

方法 被験者

- 被験者
 - 入門的な心理学の授業を受講している学生128人 (男性34人、女性87人、不明7人)

9

方法 材料

- 材料
 - Theories of Intelligence Scale (Dweck, 2000)
 - Self-theories of intelligence
 - Contingencies of Self-Worth Scale (Crocker, Luhtanen, Cooper, & Bouvrette, 2003)
 - Academic CSW
 - 20-item state self-esteem scale (Heatherton & Polivy, 1991)
 - Self-esteem
 - 7-point Rosenberg self-esteem scale (Rosenberg, 1965)
 - Self-esteem
 - Brief version of the Multiple Affect Adjective Check List (Zuckerman & Lubin, 1965)
 - negative affect (不安、抑うつ、敵意)

10

方法 Contingencies of self-worth scale

- Contingency of self-worth (内田, 2008)
11の下位尺度

外見: 自分の見た目を魅力的だと思えるときには自分を良い感じだと思
調和: もしもグループ内の関係の調和を壊したら、自分の価値を認めることができな
い

物品: 高い物や良い物をもっているとき、自分を良い感じだと思
異性: 異性が私を好きだと知ると、自分を良い感じだと思
競争: 課題や技術において他の人よりうまくやると、自分に価値があると感じる
倫理: 間違っているとわかっていることをやると、自尊心を失う
役立ち: 誰かの役に立てていると感じたら自尊心があがる
同性: 私を気遣ってくれる同性の友人がいることは、私の自尊心にとって重要である
家族: 家族が愛ってくれていると知ると、自分を良い感じだと思
学業: 学校や職場でよくできることは、私に自尊の気持ちを与えてくれる
他者: 他の人々が私について否定的な意見を持っていたとしても、私は気にしない
(逆転)

11

方法 Academic CSW

- 自分をどう思うかは、私が学校や職場でどれだけ優秀であるかということとは結びついていない
- 学校や職場でよくできることは、私に自尊の気持ちを与えてくれる
- 学業や仕事でうまくやっているとわかると、自分をいい感じだと思
- 私の自尊心は学業や仕事の成績によって影響される
- 学業や仕事の成績が十分でない時はいつでも、私は自分を駄目だと思

12

方法 手続き

- 手続き
 - 質問紙で計測 (Self-theories of intelligence, Academic CSW, 自尊心)
 - ↓
 - テストを受けてもらう(このとき問題中の文章にプライミングが施されている Entity or Incremental)
 - ↓
 - フィードバック(成功or失敗)
 - ↓
 - 質問紙で計測(自尊心、ネガティブ感情)

13

方法 被験者間条件

- 学業に自己価値を随伴させる程度
 - H
 - L
- プライミング
 - Entity
 - Incremental
- フィードバック
 - 成功
 - 失敗

14

結果 自尊心

- L群
 - 失敗しても自尊心はそこまで低くない
 - EntityとIncrementalで有意差はない
 - プライミングとフィードバックに交互作用なし ($F < 1.0, p > .50$)
- H群
 - Entity-成功条件と失敗条件で有意差あり ($t(17) = 3.48, p = .003$)
 - Incremental-有意差なし ($t(21) = 1.07, p > .30$)
 - プライミングとフィードバックに交互作用あり ($F(1,37) = 4.64, p = .038$)⁵

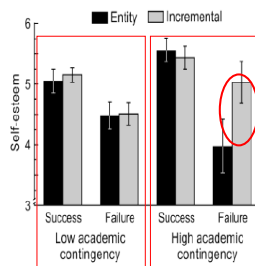


Fig. 1. Mean posttest self-esteem as a function of self-theory priming (entity vs. incremental theory of intelligence), feedback (success vs. failure), and contingencies of self-worth.

結果 ネガティブな感情

- L群
 - フィードバックの主効果は有意
 - プライミングの主効果は有意でない
 - プライミングとフィードバックの交互作用も有意でない
- H群
 - Entity 3つすべてで有意差あり
 - Incremental
 - 不安と抑うつ 有意差なし
 - 敵意 有意差あり(しかしEntityの時程ではない)

TABLE 1
Anxiety, Depression, and Hostility as a Function of Self-Theory Priming, Feedback, and Contingencies of Self-Worth

Self-theory priming	Academic contingencies of self-worth			
	Low		High	
	Failure feedback	Success feedback	Failure feedback	Success feedback
Anxiety				
Entity	2.44	2.10	2.06	1.83
M	0.64	0.65	1.06	0.51
n	16	17	7	11
Incremental	2.77	2.14	2.08	1.85
M	0.73	0.64	0.79	0.32
SD	1.4	1.5	1.1	1.2
n	14	15	11	12
Depression				
Entity	2.56	2.13	3.37	1.81
M	0.89	0.79	1.25	0.69
n	16	17	7	11
Incremental	2.73	1.95	2.22	1.74
M	0.76	0.41	1.12	0.32
SD	0.83	0.70	0.75	0.81
n	15	15	11	12
Hostility				
Entity	2.44	1.80	2.88	1.53
M	0.96	0.63	1.15	0.45
SD	1.6	1.7	1.1	1.0
n	16	17	7	10
Incremental	2.57	1.96	2.05	1.49
M	0.83	0.70	0.75	0.81
SD	0.83	0.70	0.75	0.81
n	15	12	11	12

16

考察

- Entity Theoryを信じているひとが、自尊心を随伴させている領域で失敗した時に自尊心は傷つきやすく不安定で、ネガティブな感情を感じやすい
- そうした傷つきやすさ不安定さ、ネガティブな感情に対し、単純なプライミングをかけることで、失敗時の
 - 自尊心の低下
 - ネガティブな感情
 を和らげることができる

17

参考文献

- Crocker, J & Park, L.E (2004). The Costly Pursuit of Self-Esteem. *Psychological Bulletin*, 130, 392-414
- 内田由紀子 (2008). 日本文化における自己価値の随伴性—日本版自己価値の随伴性尺度を用いた検証— 心理学研究, 79, 250-256

18